

第3章 単元計画の作成 【解説P69～74】

第1節 単元計画の基本的な考え方

単元とは、生徒の学習過程における学習活動の一連の「まとまり」という意味である。単元計画の作成とは、教師が意図やねらいをもって、このまとまりを適切に生み出そうとする作業に他ならない。単元づくりは、教師の自立的で創造的な営みである。学校としてすでに十分な実践経験が蓄積され、毎年実施する価値のある単元計画が存在する場合でも、改めて目の前の生徒の実態に即して、単元づくりを行う必要がある。

単元計画の作成は、大きく次の2つに分けることができる。まずはじめに単元を構想する。次に単元の計画を具体的に書き表す。実際には、2つの作業を行きつ戻りつして望ましい単元計画を作成していくことが大切である。

1. 単元計画作成の手順

単元計画の作成にあたっては、次ページ「単元計画作成の手順チャート」にそって、以下の①から⑦の手順が考えられる。

① 全体計画・年間指導計画を踏まえる

単元計画を作成するにあたっては、その前提として、学校の全体計画・年間指導計画を踏まえる必要がある。

② 3つの視点から、中心となる活動を思い描く

単元構想の出発点として、「生徒の興味・関心」「教師の願い」「教材の特性」の3つの視点が考えられる。どの視点から構想を始めても、他の2つの視点についても十分に思いを巡らせることが大切である。

① 生徒の興味・関心

生徒の実態や興味・関心を出発点とすることで、生徒の主体的な活動が保障できる。

② 教師の願い

教師の願いを出発点とすることで、どんな内容について学ばせたいのか、どんな資質や能力及び態度を身に付けさせたいのかを明確にした単元構想が可能となる。

③ 教材の特性

教材とは、生徒の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことである。

教材(学習材)の特性を出発点とすることで、どのような問題解決や探究活動を行うことができるか、明確に見通すことができる。その際、横断的・総合的な学習になるように意識することが求められる。

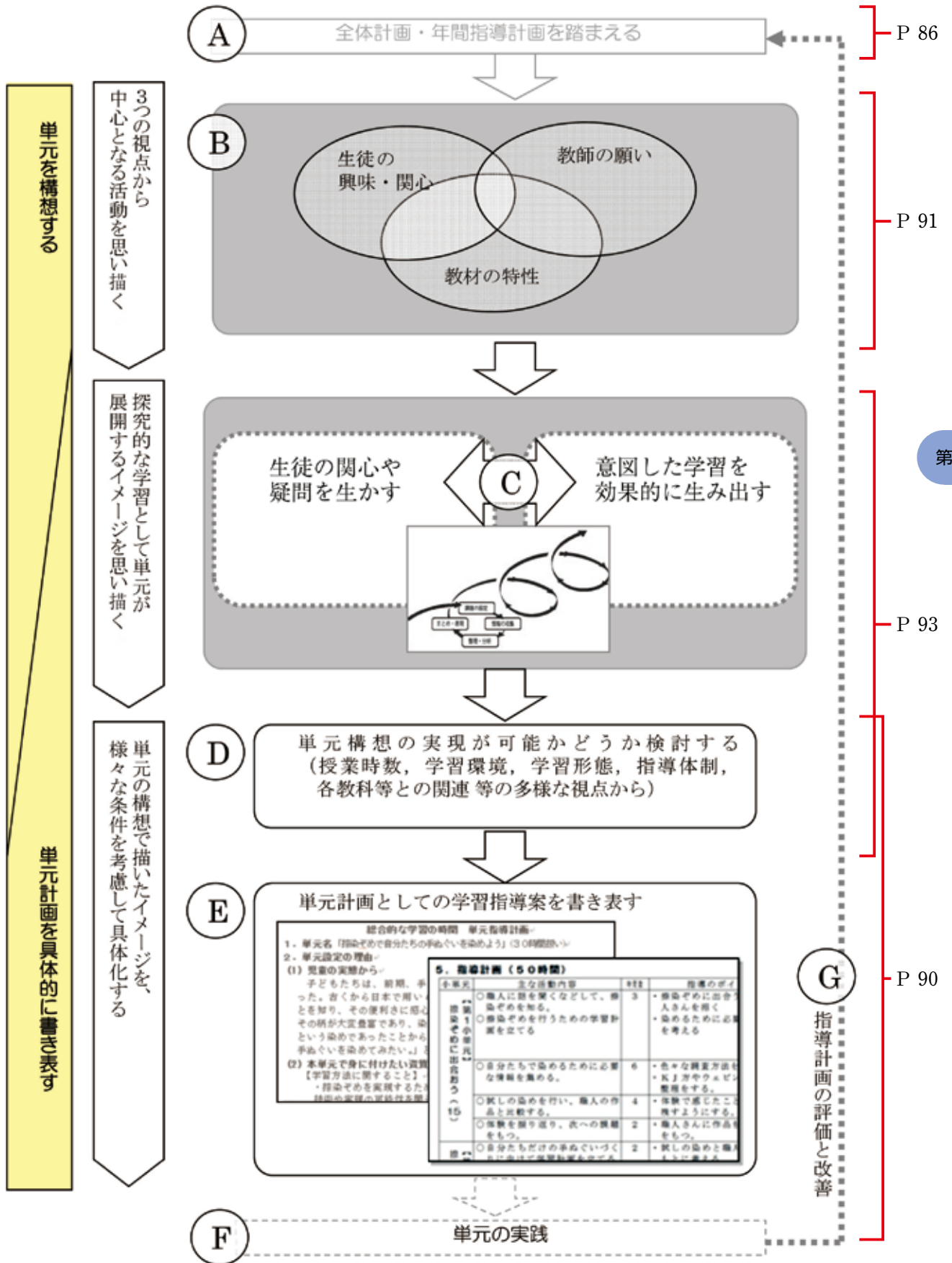


図 単元計画作成の手順チャート

③ 探究的な学習として単元が展開するイメージを思い描く

②で思い描いた中心的な活動を、生徒主体の価値ある探究的な学習にするためには、次の二つのポイントがある。

① 生徒による主体的で粘り強い問題の解決や探究活動を生み出すには、生徒の関心や疑問を重視し、適切に取り扱うこと。

② 問題の解決や探究活動の展開において、教師が意図した学習を効果的に生み出していくこと。

生徒が主体的に進める活動の展開においては、教師が意図した内容を生徒が自ら学んでいくように単元を構成する点に難しさがある。そこでまず、その関心や疑問から、生徒はどのような活動を求め、展開していきだろうか考える。そして、活動の展開において出会う様々な問題場面と、その解決を目指して生徒が行う問題の解決や探究活動の様相、さらにそれぞれの学習活動を通して生徒が学ぶであろう事項について、考えられる可能性をできるだけ多面的、網羅的に予測する。もちろんその際には、各学校で定めた内容、育てたい資質や能力及び態度との照らし合わせを行う。

④ 単元構想の実現が可能かどうか検討する

まず、単元を構成する諸活動を考えた後に、各活動が生徒の意識や活動の自然な流れに沿って展開できるかを検討する。流れに不自然さや無理がある場合には、順番を入れ替えたり、活動の間に別の活動を挟んだり省略したりすることで、単元構想の実現可能性をより高めることができる。さらに、各活動の授業時数、学習環境、学習形態、指導体制、各教科等との関連等の多様な視点から、単元構想が実現可能かどうか吟味する。

⑤ 単元計画としての学習指導案を書き表す

単元の計画を具体的に表現するには、以下のような構成要素が考えられる。

- | | |
|-----------------|-------------|
| ○単元名 | ○地域や学校の特徴 |
| ○単元目標 | ○社会の要請 |
| ○生徒の実態 | ○学校研究課題との関連 |
| ○育てたい資質・能力及び態度 | ○各教科等との関連 |
| ○学習課題、学習対象、学習事項 | ○単元の評価規準 |
| ○教材について | ○指導計画・評価計画 |
| ○教師の願い | など |

⑥ 単元の実践

どれだけ丁寧に単元づくりを行っても、生徒の活動は教師の想定通りにはならない場合もある。その際には、計画通りに実行するのではなく、生徒の動きに応じて柔軟に修正しつつ学びを生みだそうとする、教師の構えが重要になってくる。

⑦ 指導計画の評価と改善

単元の実践をふり返り、単元計画を見直すとともに、次年度の全体計画や年間指導計画の改善に役立てることが必要である。

2. 単元計画としての学習指導案

単元計画を書き表す上での基本的なイメージは、次の図1ようになる。ここでは、単元計画の構成要素（単元計画に記される基本的な内容）について示し、その具体例については第2節において示す。

平成〇〇年度 〇〇中学校 総合的な学習の時間 第〇学年（〇学〇組）単元計画														
<p>1 単元名</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">総合的な学習の時間において、どのような横断的・総合的な学習や探究的な学習が展開されるかを一言で端的に表現したものが単元名である。総合的な学習の時間の単元名については、① 生徒の学習の姿が具体的にイメージできる単元名にすること、② 学習の高まりや目的が示唆できるようにすること、に配慮することが大切である。</p>														
<p>2 単元設定の理由</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">ここでは、なぜこの単元を計画したかについて、様々な要素からその設定理由を述べる。要素としては、①生徒の実態、② 育てようとする資質や能力及び態度、③教材について（内容とのかかわり）、④教師の願い、⑤地域や学校の特色、⑥ 社会の要請、⑦学校研究課題との関連、⑧ 各教科等との関連等が挙げられる。</p>														
<p>3 単元目標</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">どのような学習を通して、生徒にどのような内容を学ばせ、どのような資質や能力及び態度を育成するのかを明確に示したものが単元目標である。各学校の目標や内容、育てようとする資質や能力及び態度を視野に入れ、中核となる学習活動をもとに構成することが考えられる。なお、目標の標記については、一文で示す場合、箇条書きにする場合などが考えられる。</p>														
<p>4 単元の評価規準</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">評価の観点</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">評価規準</td> <td colspan="4" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 評価の観点を設定する際には、①育てようとする資質や能力及び態度を踏まえた観点、②総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点、③教科との関連を明確にした観点の3つが考えられる。 </td> </tr> </table>			評価の観点					評価規準	評価の観点を設定する際には、①育てようとする資質や能力及び態度を踏まえた観点、②総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点、③教科との関連を明確にした観点の3つが考えられる。					
評価の観点														
評価規準	評価の観点を設定する際には、①育てようとする資質や能力及び態度を踏まえた観点、②総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点、③教科との関連を明確にした観点の3つが考えられる。													
<p>5 指導計画（〇時間）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%; padding: 5px;">学習過程 （時間数）</th> <th style="width: 40%; padding: 5px;">活動内容</th> <th style="width: 45%; padding: 5px;">指導のポイント・関連する教科等 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td colspan="2" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 活動内容や時間数、学習環境をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動における指導のポイントや関連する教科等の学習内容、評価の視点等についても示すことが求められる。 </td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			学習過程 （時間数）	活動内容	指導のポイント・関連する教科等 等					活動内容や時間数、学習環境をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動における指導のポイントや関連する教科等の学習内容、評価の視点等についても示すことが求められる。				
学習過程 （時間数）	活動内容	指導のポイント・関連する教科等 等												
	活動内容や時間数、学習環境をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動における指導のポイントや関連する教科等の学習内容、評価の視点等についても示すことが求められる。													

図1 単元計画の基本的な構成要素

第2節 単元計画作成の具体的手順

前節の考え方に沿って、単元計画を作成した事例を示す。

単元名「未来の自分に近づこう！」（第2学年 70時間扱い）

《単元の概要》

3日間の職場体験や、地域で働く人々とかかわる活動を中心に、地域で働く人々の仕事に対する姿勢や願いを知り、自己の将来や生き方を考えさせるよう学習活動を展開した単元である。



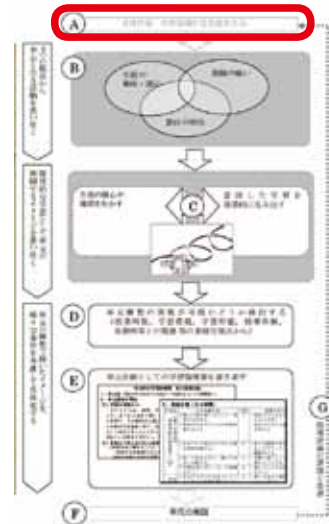
1. 全体計画・年間指導計画を踏まえる

■全体計画との関連



<目標>

自分と地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりについて、探究的な活動を通して、総合的に追究する方法を身に付け、そこにある問題を主体的に見出し、仲間と協力して問題を解決するとともに、自己の在り方や生き方を見つけようとする



本単元で主に育てようとする資質や能力及び態度

学習方法	・課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える
自分自身	・自己の将来を考え、夢や希望をもつ ・自己の目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する

本単元で扱う内容

職業・将来	【学習対象】 地域で働く人々の仕事に対する姿勢や願い	【学習事項】 職業や自己の将来に関して、職場体験などの探究活動に主体的に取り組み、自己を理解し、自己の将来の生き方を考える。
-------	-------------------------------	---

■年間指導計画との関連

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
2年	「未来の自分に近づこう」 「職場体験に行こう！」 34h				「働くって何だろう？」 16h			「私のライフプラン」 20h					
	課題決め 職場決め 事前・事後学習			職場体験		プロの講話 働く意義の考察 職場再訪問		発表会	プロの知識を学ぶ 将来の進路を考える 地域の人から学ぶ				

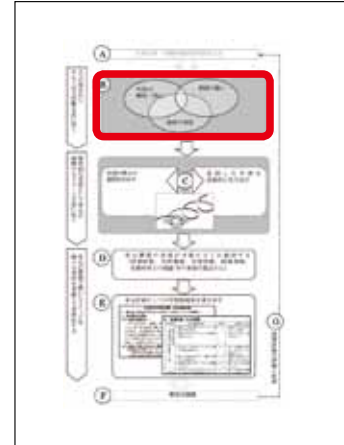
2. 3つの視点から生徒の姿を思い描く

この事例では、3つの視点のうち、職場体験を通して生じた興味・関心や疑問から単元を構想した。「もっとやってみたい!」という意欲を生かし、さらに追究できる機会を設けることで、生徒の主体的な探究活動を生むことにつながると考えた。

第3小単元「私のライフプラン」

(1) 生徒の興味・関心

前の小単元の「働くって何だろう?」を通して考えたこと、興味を抱いたこと、疑問をもったこと、もっとやってみたいことなど、生徒に芽生えた関心を生かして、単元を構想した。



商品の陳列を体験したが、色の並び順とか見せ方とか、そんなに深い理由があったとは知らなかった!どんな並べ方があるのか調べたい!



接客を体験して、ちょっとだけコミュニケーションが上手になったと思うけど、あいさつとかマナーとか、もっと練習してみたい!



農園で体験して、普段は見えなかったけれど色々な仕事をしていることが分かった。どんな思いで仕事に取り組んでいるのか知りたい!



総合担当

こんなに興味・関心がふくらんでいるのに、そのままじゃもったいないな! それじゃあ、これをもっと探究できるように単元を考えよう!

《興味・関心の実態を把握する》

前単元で高まった生徒の興味・関心を、感想や活動の様子、レポート等から把握する。

(2) 教師の願いと教材の特性

次に、どのような力を育てたいのか、どのような内容を学んでほしいのかについて、全体計画をもとに考え、中心となる学習活動を具体的に思い描いた。



教師A

あの子たちが、職場体験の時に気付いたことを、もう一步深めてくれたら、もっと体験が生きるんじゃないかな。



教師B

そうだね。このままだと、体験した職場のことだけで終わってしまうから、もっと広い視野で職業を見られるようになってほしい。

《職場体験は、発展性のある魅力的な教材》

職場での体験活動は、働く意義だけでなく、地域や人の生き方などに対する興味・関心を大きくふくらませる。学習活動が大きく発展する可能性をもっていることを、教職員間での話合いや教材研究を通して確かめ合う。



教師C

いや、興味や疑問がたくさん沸いているのだから、対象は「職業」だけに決めない方がいいよ。職場体験で気付いたことをもう一步深めて、「そうだったのか！」って納得してる姿が、理想だなあ。



総合担当

全体計画では「地域で働く人々の仕事に対する姿勢や願い」を学習対象にしているから、この単元では身近で働く人とかかわりを深めるようにすればいいんじゃないかな。

《教材と出会う姿を思い描く》

生徒が、地域の人々とかかわりを深め合う姿を思い描くことで、単元の中心的活动を明確にする。

次に、全体計画に定めた育てたい資質や能力及び態度や内容等を考慮して、生徒の成長の姿を具体的に思い描いた。



総合担当

全体計画には、育てたい資質・能力・態度に「自己の目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する」とあるから、自分にとってこれから必要な力とか知識とか、そういうものを学ばせたいな。

《どんな資質や能力及び態度を育てたいのか？》

全体計画を踏まえて、構想を具体化する。



教師A

そうね。そのためには、もう2年生なんだし、自分で決めた目標に向かって、見通しをもって計画的に活動してほしいわ。

《授業のイメージを学年で共有する》

大まかな指導のイメージを学年会等で話し合い、共有しておくことで、ポイントを押さえた単元計画につなげる。



教師C

それなら、まずは個人課題をはっきり決めさせましょう。そのほうが将来の自分も思い描けるし、活動も計画的になると思うな。

《単刀直入な単元名》

何をさせたいのか、何を学んでほしいのかといった、教師の願いが生徒に伝わるような単元名を考える。



教師B

小単元名も、何の学習なのか、一目でわかったほうがいいよね。「職業学習を、もう一步深めよう！」なんてどう？



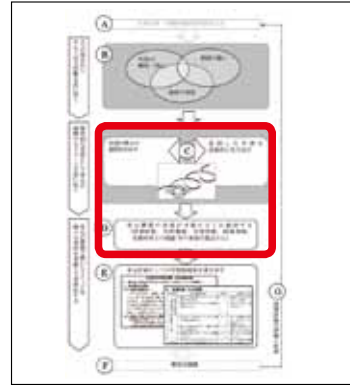
教師A

それよりも「私のライフプラン」なんて、どうかしら。プロの知識を新たに学びながら、自分の進路を考えさせて、進みたい方向を見つけさせたいな。

3. 探究的な学習として単元が展開するイメージを思い描く

これまでに考えた単元構想を具体化する際に、学習過程を探究的にするよう、単元の計画を考えた。

「職場体験に行こう！」では、3日間の職場体験学習に取り組む活動を中心にして、職業への意識を広げていこう。
 「働くって何だろう？」では、プロの講話を聞いたり、再度体験先へ行ったりして、働く意義を考える活動を中心にしていこう。



「私のライフプラン」

課題の設定では…

前の小単元で、発表会で芽生えた疑問や、指摘されて見えてきた新たな課題から出発させたいな。

学級単位では課題の広がりや予想されるから、学年の中で「講座」を設定して、生徒の個人課題に近い講座を選択させるようにしよう。

ガイダンスを開いて追究できるテーマの例を示して、自分の課題と近い「講座」を選ばせよう。

《個人課題の質を高める》
 生徒の関心や疑問に対応できる「講座」を開設するとともに、生徒の課題がどの講座のテーマに属するか考えさせる。こうすることで、課題の質が高まり、教師が意図した学習を効果的に生み出すことができる。

情報の収集では…

見通しを持たせたいから、調査項目をきちんと決めさせて、集めた情報をその都度整理させるようにしよう。

今度は違う職場へ行ってみたり、専門家の方から話を聞いたりできるように、校外で人と出会う時間を確保しよう。

計画性も育てたいから、校外学習の日をあらかじめ決めておいて見通しをもたせるようにしたり、講座の特徴に合う資料を考えさせたりして、計画的に情報を集めさせよう。

《多様な方法による情報の収集》
 実習やインタビュー等の体験的な活動や、インターネットや文献等の活用を通して、多様な情報を収集することが重要である。

整理・分析では…

体験して、感じたことや思ったことを、きちんと言葉で表現させるようにしよう。

分かったことを調査項目に即して比較したり、仲間分けしたりして、分析・考察させるようにしたい。

整理・分析している中で、足りない情報があったら、メールや電話で質問させて情報を収集させよう。

《思考力・判断力・表現力を育てる》
 集めた情報を、KJ法的手法やウェビング等を用いて、比較・分類・関連付け等して、情報の整理・分析を行う。

まとめ・表現では…

授業時数を考えると、講座別の発表会とか、冊子をつくるとか、講座ごとに工夫して成果をまとめたらどうかな。

分かったことだけでなく、将来の職業生活を描いたライフプランを考えさせてまとめるようにしたいね。
 まとめたものを地域の人に届ければ、地域の人に喜ばれるよね。そのかわりを通して、自分の将来に目を向けた新たな課題が見つかるといいな。

《目的のあるまとめ》
 相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり表現したりする。まとめたり表現したりすることが、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつながることを意識して指導する。

4. 単元計画を具体的に書き表す

単元の構想で描いたイメージを、様々な条件を考慮して具体化する。

平成22年度 総合的な学習の時間「いきいきタイム」 第2学年 単元計画

1. 単元名 「未来の自分に近づこう！」 70単位時間扱い

2. 単元設定の理由

(1) 生徒の実態から

生徒たちは、進路学習等を通して、生活や社会にある様々なことに対して、たくさんの興味や関心、疑問、意欲が沸いている。また、職場体験を楽しみにしており、働く体験を通して、社会性や職業観・勤労観について意識が芽生えはじめ、社会に出て生活することを考え始めている。

そこで、こうした興味・関心や疑問、「もっとやってみたい!」という意欲をさらに追究できる機会を設け、将来の自分に向かいもう一歩努力するため、地域の方から学ぶ機会が必要と考え、この単元を構想した。

(2) 単元で育成したい資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ・地域の方の仕事に対する姿勢や願いを、自己の考えと比較したり、行間に込められた思いを推測したりして考える。

【自分自身に関すること】

- ・将来の夢や希望を具体的に描き、今の自分と照らしながら、夢や希望に向かうための目標を具体的に挙げる。

【他者や社会に関すること】

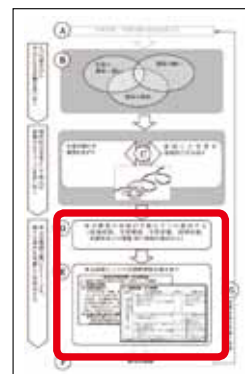
- ・地域とのかかわりを積極的に深めようとする。
- ・地域における、自分の在り方を考える。

(3) 教材について

学習対象は「地域で働く人々の、仕事に対する姿勢や願い」であり、これを一人ひとりの疑問・関心とつなげて、個人課題を設定させる。職業学習を終えたことで、生活や社会に新たな発見があり、それをもう一度地域の方から学ぶことが、生徒一人ひとりにとって魅力的な教材となり、主体的で熱心な学習の姿が期待できる。そこで、中心的な活動として、地域に出かけ、地域の方との語り合いに取り組む。

3. 単元目標

地域で働く人々の仕事に対する姿勢や願いを通して、職場体験を通して生じた関心や疑問を探究することで、職業や自分に対する理解を深め、自己の将来の生き方を考える。



全体計画にある「資質や能力及び態度」と「内容」を踏まえ、この単元の独自性や重点が見えるよう、全体計画より具体的に書きます。

単元の目標は、箇条書きで複数個示す方法もある。

4. 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
評価規準	①地域の人の仕事に対する姿勢や願いを取材し、その表情やしぐさまで読み取り記録している。 ②職場体験で生徒自身が感じたことと、取材で分かったことを比較して考察している。	①将来の夢や希望に向かうための目標や、その達成に必要なことを課題に設定している。 ②地域の人から学んだことと、収集した十分な資料に基づき、自分の生き方を考えている。	①地域の人に積極的に質問したり、交流を深めたりしている。 ②地域の中で自分がどう在りたいか、地域とどうかかわっていきたいか、自分なりに考えている。

育てようとする資質や能力及び態度を、生徒が取り組む学習活動との関連において具体的に示す。

5. 指導計画

	主な活動内容	時数	○指導上の留意点
職場体験に行こう！ 第1小単元 34h	○単元オリエンテーション	2	○職業への関心をふくらませる。
	○個人課題と体験先決定 ○職業調べ ○マナー講座	8	○各職種の業務内容等について事前に学習させる。
	○職場体験学習（3日間）	18	
	○体験のまとめ ○次課題の設定	6	○自分が感じたことや思ったことを言葉で表現させる。
働くって何だろう！ 第2小単元 16h	○生き方講話（3つの職業から） ○働く人に聴いてみたいことを次課題に設定 ○職場再訪問 ○学んだことのまとめ	8	○職業観や勤労観に着目させる。 ○地域の人とのかかわりを深められるよう配慮する。
	○学習発表会での発表と意見交流 ○指摘や疑問のまとめ	8	○気持ちや考えを言葉で表すよう指導する。 ○自分なりの職業観が芽生えるようにする。
私のライフプラン 第3小単元 20h	○個人課題の設定（プロの知識を学ぶ） ○書籍等による調査活動 ○地域の専門家訪問 ○わかったことのまとめ	14	○プロ意識、職業生活、こだわり等に着目させる。 ○自分が感じたことや思ったことを言葉で表現させる。
	○自己の将来設計 ○地域の人との交流（まとめを届ける）	6	○地域の人から学んだことを自己の将来に結び付ける。

年間指導計画と照らしながら、探究的な学習となるよう、具体的に描いていく。

学習のまとめごとに学習活動を決め、生徒の意識に沿った探究活動を進める。

時数配当は、生徒が体験的な学習を十分にとれるよう考慮して決める。

指導体制が十分に整う日を、校外学習日として設定する。

第3節 単元計画の具体例

事例① 単元名：第1学年 福祉「ボランティアで心の輪を広げよう」

年間指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	《福祉》 ボランティアで心の輪を広げよう (35時間)						《環境》 地域かがやき大作戦 (35時間)					

単元の目標

- ボランティアに携わる人とのかかわりを通して、協同的にボランティア活動を立案・実行する。
- 協同的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れる姿勢をもつ。
- 自分なりの課題を設定し、それを計画的に探究する手順を知る。

単元の展開

	主な活動内容	時数	形活動	○指導上の留意点
【教材との出会い】 福祉ボランティアという教材と生徒との出会いは、とてもインパクトがあるだろうから、単元の始めに体験させる。	○地域のデイサービスセンターを訪問し、ボランティア活動の実際や、お年寄りの生活実態や願いを知る。	4	学年	○社会科や技術・家庭科(家庭分野)の視点から、地域福祉の実態について理解を深めさせる。
	○クラスで話し合い、中心課題を決める。 個人課題の設定	5	学級	○中心課題の例 「お年寄りが楽しめることは何か」「お年寄りの自立を助ける支援」「福祉のところがまえ」
【生徒の興味や疑問】 体験から芽生えた興味や疑問が、探究の入り口にするよう、個人課題を設定させる。	○中心課題に沿い、個人課題を決める。 ○活動計画を立てる。 個人課題の設定	6 +夏休み +10	個人	○活動計画の中に、地域の福祉施設の訪問を位置付ける。
	○個人課題に沿って福祉施設を訪問する。 ○ボランティア活動に取組ながら、色々な人の真意に迫る。 情報の収集～整理		個人	○訪問の目的(どんな情報を収集したいのか、何を知り、何を体験したいのか)を明確にさせる。
【クラスの中心課題】 一人ひとりの活動を振り返るよりどころがあったほうが、話合いもスムーズで、生徒も活動しやすいので、中心課題を設定させる。	○中心課題に沿って、学んだことを発表しあい、共有する。 ○自分たちがさらにやってみたい活動を考え実践する。 まとめ・表現 次課題の設定	10	学級 個人	○中心課題を、振り返るよりどころにする。
	○実践した記録を整理し、お年寄りの生活やボランティア活動について気付いたことを整理する。 情報の収集～まとめ		個人	○個人課題を、振り返るよりどころにする。 ○個人レポートの形でまとめる。

【教師の願い】
ボランティアは一度きりじゃ意味がないだろうから、何回でも行けるようにする。夏休みもうまく使いたい。

【最後にもう一度実践させたい】
学んだことを生活に生かせるようになってほしいから、さらにやってみたい活動を考えさせて、実践させよう。

【単元を終えた生徒の姿】
学習する前よりも、人の気持ち(真意)によく気付いたり、お互いを優しい目で見つめ合い声を掛け合うような姿になってほしい。

事例② 単元名：第2学年 環境「めざせ！eco生活」

年間指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	めざせ！eco生活 30h (学年単位で展開)										地域のために働こう 40h (学級単位で展開)	

単元の目標

- 校区の環境問題を見つける。
- 見つけた環境問題を解決するために、学級で話し合っ取り組む。
- 取り組んだ成果を評価し、改善点を明確にする。

学級テーマの例

- ◇ecoって実は、ゴミを出さないこと！（ゴミ削減）
- ◇エネルギーを使わないようにしよう（省エネ）
- ◇ものを大切に扱うんだ！（再利用）

単元の展開

主な活動内容	時間	○指導上の留意点	◇評価の視点	教科等との関連
○施設見学で問題意識をもつ。	2	○学年で一斉に取り組む。	◇校区の環境問題を見つけ、課題を設定できたか。	社会 理科 技・家
○学級テーマを決める。 ○学級テーマに基づき個人課題を決める。 課題の設定	2	○担任が強くかかわり、意欲を喚起する。		
○テーマに合わせて、地域の方に来ていただく。 ○地域の様子を取材する。 ○解決方法を調べる。 情報の収集	8	○教師の専門性や、学校の教育力を生かしながら、地域の実態を把握させる。	◇実態に基づき、データを収集することができたか。	社会 数学 技・家
○取り組みながら、実態を調査・観察する。 ○地域の人に出会い、解決方法などを情報収集する。 情報の収集				
○学級で話し合い、実際に取り組めることを考える。 ○地域で取り組んでいることとの連携を考える。 整理・分析	10	○話し合いを支援しながら、何をecoと考えるか整理させる。	◇学級やグループで話し合いながら、具体的な取組を考え、実践できたか。	特別活動
○1学期に取り組んだことを学級内で報告する。 ○3学期まで継続して取り組む内容を決め、学級で計画的にeco生活を実践する。 まとめ 次課題の設定	4	○成果を論理的にまとめさせる。	◇成果と課題を論理的にまとめ、次の課題を見つけることができたか。	社会 技・家
○1年間の取り組みをふり返り、成果を学年で報告しあう。 まとめ・表現	4	○学年で成果を共有できるように支援する。		

事例③ 単元名：第3学年 個人研究「広い視野で世界の問題を見つめよう」 70 単位時間扱い

年間指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11
単元	個人研究「広い視野で世界の問題を見つめよう」							
	①何が「問題」なのだろう？ 24h			②専門家に会いに行こう！ 24h			③解決策を提案しよう！ 22h	
	○課題設定 ○事前研究	修学旅行 6h	○取材のまとめ ○さらに研究		○専門家訪問 6h	発表準備		○発表会 6h

総合的な学習の時間 第3学年 単元計画

1. 単元名 「広い視野で世界の問題を見つめよう」 70 単位時間扱い

- 小単元① 何が「問題」なのだろう？ 24h (18h + 6h)
- 小単元② 専門家に会いに行こう！ 24h (20h + 4h)
- 小単元③ 解決策を提案しよう！ 22h (16h + 6h)

2. 単元の目標

中学校で学習してきた事柄を総合し、世界中にある現代的な課題（諸問題）を取り上げ、その現状を丁寧に取材・分析し、現地の様子や専門家の見識を踏まえながら、その問題の解決策を提案し、自己のかかわり方について考察する。

- 【学習方法】 ①地域や世界に関する諸問題について、丁寧に情報を集め、それを論理的・客観的に整理・分析する。
- 【自分自身】 ②考察に基づき、自分ができることを考え行動できる。
- 【他者や社会】 ③対象とする問題にかかわる人々の思いや願い、社会的背景を理解し、考察に生かす。

全体計画と照らし、生徒の成長の姿を、具体的な目標に設定する。

3. 単元設定の理由

進路選択を控えた本校の3年生は、学校に通う意義や学問を学ぶ意義、はたらく意義について考えを巡らせ、悩むことが多い。

それに伴い、生活や社会を見つめる視野が徐々に狭くなり、目の前の自己中心的な問題にとらわれがちである。

そこで、卒業する時には、身近な世界から地球規模の世界まで視野を広げながら、社会的な諸問題、現代的な課題に注意を向けるようになってほしい。そしてそれらの問題について論理的・客観的に分析し、今の自分ができることを考え行動できるようになってほしいという願いを込めて、この単元を設定した。

4. 教材について

学習対象は「地域や世界に関する諸問題に取り組む人々」である。様々な問題に積極的に取り組む専門家の考え方や生き方は、生徒たちの視野を広げ、自己を見つめ直すよい教材になる。そこで、生徒自身が興味・関心をもった事柄を課題に設定させることで、こうした人々の考え方や生き方を真摯に受け止めながら、諸問題の解決に向けて広く深く探究し、グロー

出会う人々の考え方や生き方が、全て教材になります。中学校では、こうした抽象的なものが「教材」になることが多いかもしれません。

バルな視点で未来を見つめる姿を期待したい。

課題例：「福祉用コンピュータと生活」「バイクのしくみと利用」
「たばこの功罪」

5. 単元の展開

	学習過程、主な学習活動	学習活動の例	留意点	行事等との関連
小単元① 24h 何が問題なのだろう？	事前調査 大まかな課題を設定しよう 課題の設定	○自分が関心をもっている分野(コース)を選ぶ。 ○興味のある事柄を予備調査する。	○学習ガイダンスを開く。 ○コースは「環境」「福祉」「ものづくり」「地域」の4つにする。	各教科等で興味・関心の喚起
	現地取材 修学旅行で、問題を実感してこよう 情報の収集～整理	○訪問計画を立てる。 ○修学旅行中に、博物館、被災地に行ったり、語り部、専門家に会ったりして、問題意識を高める。	○グループ行動を基本にして、グループの課題を設定させる。	修学旅行(6h)
	追究課題を決めよう 個人課題の設定	○実感や問題意識から、追究課題を決める。	○個人課題を設定させる。	各教科等の視点でアドバイス
小単元② 24h 専門家に会いに行こう！	専門家取材 専門家の考えを知ろう 情報の収集～整理	○取材計画を立てる。 ○専門家に会いに行き、その人の考え方、取り組み、知識や技術、生き方等を取材する。	○実感したこと、視野が広がったこと、見方や考え方が変化したこと等をすぐに記録させる。	現地訪問(4h)
	考察 問題をきちんと分析し整理しよう 整理・分析 小課題の設定と探究	○専門的な知見や、取材等での実感を踏まえて、問題点を分析し整理する。 ○自分なりの解決策を考察する。	○取材に基づき、論理的・客観的に、整理・分析・考察させる。	
小単元③ 22h 解決策を提案しよう！	成果の発表 提案の準備をしよう 整理・分析	○探究してきたこと、考えたこと等を、発表に向けて準備する。	○表現手段をよく吟味させる。	
	学習の成果を共有しよう まとめ・表現	○発表会を通して、自分なりの解決策や、自己の今後の生き方について発表する。	○質疑が活発になるよう指導する。	学習発表会(6h)
	未来に向かって行動しよう 将来に向けた課題設定	○提案したことに基づき、具体的に行動する。	○探究の成果が、自己の成長や将来につながっていることを実感させる。	

全体計画の「内容」に基づき、生徒の多様な興味・関心を受け入れられるようなコースを設定します。

自己の生き方につなげるため、生徒自身の実感や感想、お会いした方の考えや生き方(醸し出す雰囲気等)を重視して情報を収集します。